

# 農業委員会だより



丹後町間人岡成地区の百度打ち 2月5日に丹後町間人の岡成（おがなり）地区で化粧まわしを着け同区内を駆けめぐる「百度打ち」が行なわれました。当日は寒波も緩んだ日でしたが、寒い中を10人の男衆が「区民の無病息災」や「五穀豊穡」を祈願しました。

## ● 目次 ●

2~3P **「農を語る」** 北畿リゾート株式会社  
代表取締役 西途 顯太郎さん

4~5P **密着取材** 担い手養成実践農場で研修中の  
岡田芳洋さん奮戦記 最終回  
**ばいすー声ー** 「農業の先生から農業者へ～退職後のチャレンジ～」  
金森正信委員

6P **視察研修を行ないました**  
地域での話し合いで農地を守りましょう

7P 京丹後市農業施策に対する建議書を提出しました

8P **がんばってます!** 井上農産直売所（峰山町）  
森 和哉さん（大宮町）

9P **京丹後アグリ瓦版** 野間のどぶろく 古代米  
わら細工 コウノトリ

10P **京丹後紀行** 飢餓・飢饉（久美浜町）  
**お米推進レシビ** 「いもあん入り米粉ロールホットケーキ」



# 農

を語る

## 遊休農地 再生に取り組む挑戦者



北畿リゾート株式会社 代表取締役

西途

顯太郎さん

(68)

(網野町浜詰)

網野町で大型土産物店や旅館を経営する西途顯太郎さんが、平成21年から網野町岡田地区で遊休農地を活用し、農業に挑戦しています。近年、観光客が減少する中、新しい誘客の手法を模索し、観光農園として果樹やイチゴの栽培に取り組むことで遊休農地の再生利用に大きく貢献しています。

### 農業に取り組む

きっかけは、年間を通じて観光客に楽しんで頂けるような観光農園計画を思い立ったことである。立地条件としては一定の面の集積が可能であり、観光農園として風光明媚なエリアを検討する中で、農業委員会にも相談し、団体営事業で整備された網野町岡田地区と国営俵野団地を第1候補地とした。なかでも、岡田地区については耕作放棄地が大半を占めており、農地の再生にも繋がることから地元の理解も得られた。

農業に本腰を入れるため、平成21年に北畿リゾート(株)に農業事業部を作り、その責任者として吉岡清視課長を据えた。手始めに俵野地区の国営開発農地でイチゴのハウス栽培と露地でミカン300本、ブルーベリー600本の苗を2haの農地へ植栽を行なった。

岡田地区では地元農家と協議し、道・水路の維持管理は会社で行なうことを条件に5haの農地を借り受けることが出来た。借受け時は孟宗竹が繁茂するなど大変な状況であったが、重機を使い1年



左：西途さん 右：吉岡さん

かけて整備し、柚子、梅、無花果、山椒の植栽を行なった。「やれる事をやってみる」と言うことで始めたが、梅については全て鹿に食われてしまい全滅の被害を受けた。それでも獣害対策を強化し、再度、梅の苗200本を植栽する準備をしている。

伊野地区のイチゴハウス2棟で行っている旅館の宿泊客向けの「摘みとり体験」は好評で、数年後には両地区で年間を通してブルーベリー、イチゴ等の作物が収穫できる予定。

また、収穫された作物は旅館や土産物店での利用はもちろん、規格外品についても自社で加工し、廃棄ロスを無くすようソース等色々な自社オリジナル加工品を製造している。

今後、実をつける梅についても果実酒特区の申請を計画しており、オリジナルな梅酒で加工販売できるように考えている。

## 獣害被害について

いては、岡田地区の耕作者の悩みであり、同地区内で共に農作物を栽培している農家の耕作地も含め、周辺2.5kmをワイヤーメッシュと有刺鉄線(5段)を張り巡らせ対策を行なっている。

一方、海沿いの国立公園内で枯れて倒れたアカシアの木が景観を損ねていることから環境省と交渉を行い、景観面の改善と資源の有

効利用の観点から公園の倒木を搬出し両地区において防護柵の支柱として利用している。

## 共存共栄で行なっていく

ことが大事だと話す西途さんは、一人だけが儲かるのでは観光農園は成り立たない。にぎわいを生むことにより「作ったものが売れる」「雇用の機会が生れる」等々地域社会との共存共栄が必須条件だと考えている。

今政府が進めているTPPへの参加は、地域農業の衰退につながるの思いから反対している。私どもがやっていることが、地域の農産物の販売の手助けになり、地域の活性化につながるよう頑張りたい。

西途さんは更に今後も規模拡大を図ることを考えており、「努力して苦労せん何もできへん。知恵を出して農業をどうするか考えんなあかへん」と、丹後弁で語る西途さんの農業に対する想いは熱い。

(取材 藤本委員)

# 全国農業新聞



## 全国農業新聞を購読してみませんか？

全国農業新聞は公的機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を活かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

購読の申込みは京丹後市農業委員会へお気軽に連絡ください。

週刊 金曜日発行 月600円、年7,200円(消費税込み)

# 材|取|着|密

## 担い手養成実践農場で研修中の 岡田芳洋さん奮戦記

最終回

平成23年4月から新規就農に向け実践農場で研修中の岡田芳洋さんに密着し、早くも一年が経とうとしています。今回で最終回となりますが、谷芳農園での研修の取組みがどうだったのか聞いてみました。

### Q 1年を振り返っての感想は？

自分で作ったものが無事に育ち収穫できた時の喜びは大きいです。

今年のスイカ、ユリの出来が思いのほか悪く、新しいハウスで栽培したこともあり、日当たりによる気温調整や、水の管理が難しかったです。中でもユリは水のやり過ぎにより灰色カビ病が出てしまいました。

### Q イチゴ栽培も手掛けているとのことでしたが、出来はどうですか？

11月から1月まで1番果を谷芳農園の直売所やサンカイカン等で売っていますが、自分が作ったものが、お客さんから「おいしかった」と言われ、リピートして下さるのがうれしいです。この声聞きたくて、休みの予定をしてもお客さんにイチゴがほしいと言われれば、ぼり（収穫）にいく事



（デザインする農の文字に「莓」の文字をデザインした友人の大時農ナー）

### Q 結婚などの将来設計は？

結婚はまだ考えていませんが、家庭を持って妻と一緒に農業がしたいです。自分が栽培したもので、妻に加工品（漬け物・ジャム等）を作ってもらうことが夢です。

### Q 岡田君と1年間やってきてどうでしたか？

基本的に大失敗したとき以外は言わないようにしている。失敗を

師匠の谷口隆光さんに聞きました



## 「農業の先生から農業者へ」

### ～退職後のチャレンジ～



金森正信 委員

子どもの頃から、「将来は、好きな虫と関係した仕事に就きたい」と思っていたところ、縁あって京都府の農業改良普及員として社会人の第一歩をスタートさせることができました。

私は水稲専攻でしたが、新任地では、まったく逆の篤農家が多い都市近郊野菜を勉強したいと思い、旧京都府農業改良普及所向日町支所を希望して着

任しました。兼務で病害虫の発生予防の仕事をさせてもらう中で、「虫への思いが再燃し、1年目に病害虫防除所への配置換えを申し出ました。しかし、師匠である、故・山内幹雄先輩に「ほーけとるな！自分を何様だと思つとるだ！」と一喝され、ししが取り下げました。この師匠からは、本当に野菜や農業技術のイロハを教えて（盗



将来の夢を語る岡田くん

自立して責任を持って生産・販売が出来るようになってほしい。中でも消費者からの信用が大事である。単価面では厳しく言っている。価格を下げて売ろうとするのではなく、メイン商品として栽培

### Q 岡田君には何を期待しますか？

岡田君が農大に進学するとき、丹後での冬場の作物を考えてイチゴを勉強して来いと言ったが、春作物の準備をしながらイチゴを主にすれば、冬季の収入も安定すると考えた。



左 師匠の谷口さん

したものには自信を持って提供できるよう、自信を貫くことを言っている。

\* \* \*

『2年間の研修も折り返し点を迎え、順調に進行しているようです。残された1年も充実した内容となるよう期待するところです。年々経験を積み重ねて世の中を見る目や、将来展望など視野を広げ、人間的にも成長されることを祈ってこの特集を終えることにします。岡田さん、谷口さん1年間ありがとうございました。今後のご健闘をお祈りします。』

(取材：梅田委員)

## しっかり積み立て、がっちりサポート 老後の備えは国民年金プラス 農業者年金

ませて)もらいました。師匠との思い出を挙げると、私がナスの害虫を虫眼鏡で一糸懸命見ていると「心の目で見ないと見えない」と言われたこと。また、ある農家でナスの葉に多くの葉害が発生した際に、葉ばかり観察していると、「おまえは技術員か?どこに目をつけとるだアホ!定元の雑草を見てから最後にナスの葉をみる」と言われたこと。技術員として観察の重要性と冷静な目を養うことを痛いほど教えられました。

小学生の頃、子どもながらに美味しいと思ったスイカの、旭大和も、現在の品種には及びません。農業技術の中で、品種は軽く扱われているような傾向がありますが、「品種こそ技術の基本だ」と言っのが私の持論です。

私は、丹後農業研究所に勤務している頃から、ある大根に思いをよせていました。それは、主に三浦半島で栽培されている「三浦大根」です。原種に近い大根で、きめが細かく、ぼつとりとしたユニークな形の大根です。研究対象外の品種でしたが、退職して1年経った昨年、我が家で栽培してみました。三浦半島とは気候が違つたため、本来の素質が十分発揮出来たとは思いませんが、調理しても煮くずれせず、甘くて美味しい大根でした。

また、ここ2年、ポポーを栽培し出荷しています。今後モイチジクやビワなど、いろんな作物の栽培にチャレンジしながら、楽しく農業を営んでいきたいと思っています。

# 視察研修を行ないました



農業委員会では11月17日、18日の両日に亘って視察研修を実施しました。

1日目の神戸市では、「神戸旬菜」ブランドの普及に向けた「農地・水・環境保全対策事業」によりエコファーマーが増えた取り組みなどについて研修しました。



神戸市は北地域と西地域に分かれ、北は水稲が多く、西は野菜作りが中心の農業形態で、県普及センター、市・JAの3者が一体となって取組んでいます。

県普及センターは「神戸の農業」のあり方を示し、JAは直接現場で農家に営農指導する。

農家は品目別に栽培履歴をつけるなどエコファーマーとしての取組みを行なった。

県・市・JAがそれぞれの仕事をしっかりと行なうことで農家の信頼感が増し、連携の強さで成功してきたと思える。エコファーマーが12年間で27名から550名と増えていることがその証明です。

2日目は和歌山県のJA紀の里が経営する直売所「めつけもん広場」を視察しました。

早朝5時に起き、宿泊先からバスで約10分、まだ陽も明けやらぬ5時半、駐車場に着くとたくさん軽自動車が続々と野菜、くだものコンテナにつめ、バックヤードに生産者の方々が100人くらい並んでいました。

搬入は6時との事だったが、場所取りは早い者順で、とりわけ夏の桃の季節には、70m近くの搬入の列が道路まで続き、大阪などの問屋がどんと買って帰るなど大

賑わいであるとのことでした。

搬入、陳列等見聞した後、JAと生産者からお話しをお聞きしました。

生産者の高井さんは、柑橘類の専門家だが加工農産物の「アイデアウーマン」といったところ。おいしい梅干の加工、ジャム、マーマレード、ロールケーキなど作ったものが次々とヒット、苦労話も聞きながら面白く学べました。

JAの課長さんは、「農家にはいろいろ厳しく言っている。でも、それが農家の収入に繋がる。ここ

## 地域での話し合いで農地を守りましょ

国は「食料・農業・農村基本計画」に基づいた「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」の中で、地域での合意による中核農業経営体に農地を集積して規模拡大を図る施策を打ち出しました。

農業委員会では、平成22年度から農地の利用状況調査を実施し、農地をこれ以上荒廃させることなく、又、放棄地になった農地をもう一度再生し活用していく取り組みを進めています。

耕作放棄地の現状を見ると、山間部で日照時間や用排水、獣害等悪条件で、再生しても生産性の面で厳しいと思えるところから、平野部で、周辺の農地が栽培されている中に耕作放棄地が混在しているところまで様々です。

今後は、地域での話し合いにより農地として守るべき範囲をしっかりと定め、地域の農業を担うべき人に農地を集めるとともに、担い手農家がない集落においては集落営農や生産組合を組織して取り組むことが重要な課題だと思います。

農地は先祖から受け継いだ財産ですが、同時に京丹後市の財産でもあります。大切な農地を荒廃させることなく守っていききたいものです。

遊休農地利活用推進委員 田上義治

までこれたのは、農家とJAがタッグを組んで頑張ってきたから今日がある」と、自信に満ちた話でした。

旅館に帰り朝食。再び8時半頃めつけもん広場に来るとかなりのお客さん。駐車している車も大阪ナンバーの車がたくさん見えた。来客数は平成22年度で82万2千人、売上げ28億4千万円……「すごいなあ」

(谷口 光委員)



# 平成24年度 京丹後市農業施策に対する 建議書を提出しました

昨年12月15日、農業委員会では平成24年度の農業施策に対する建議書を中山市長に提出しました。

## 1 野生鳥獣害対策の強化について

全市域的に野生鳥獣の防護対策なしには農作物の作付けが出れない状態になっている中で、次のことに早急に取り組むをお願いしたい。

- (1) 防護柵等設置 への支援強化
- (2) 個体数適正管理のための捕獲体制の整備
- (3) 隣接自治体と連携した広域的な被害防除の取組
- (4) 捕獲個体の処理体制の整備

## 2 優良農地の確保と有効利用について

- (1) 耕作放棄地発生防止のため総合的な対策を講じられたい。
- (2) 「中山間地域等直接支払い制度」・「農地・水・環境保全向上対策事業」など全地域が参加できるように地域が取り組みやすい行政の指導・事務的な支援をお願いしたい。
- (3) 農用地利用集積を進めるに当たっては、モデル地区を設定するなど具体的な事業推進を図られたい。

## 3 担い手対策について

- (1) 農業経営者会議など農業者の組織への更なる支援をお願いしたい。
- (2) 新規就農者及び農業後継者への就農支援体制の強化を図られたい。
- (3) 農地の荒廃を防ぐため、集落営農組織への支援策を強化されたい。
- (4) 営農支援事業等の情報提供の充実化を図られたい。

## 4 営農支援について

### 水田農業対策について

農業者戸別所得補償制度が継続されるようご尽力をお願いするとともに、円滑に生産調整が実施されるようご指導をお願いしたい。

- (1) 「京丹後市地域水田農業推進協議会」がリーダーシップをとって生産調整に対応していただきたい。
- (2) 水田農業対策について、不公平感が生じない適正運用に努められたい。
- (3) 売れる米作り対策について、良食味生産拡大に積極的な支援をお願いしたい。

### 丹後国営開発農地対策について

平成23年度で市内の葉たばこの耕作農家がいなくなる事態となっている。早急に葉たばこに替わる作物を選定し、推進策を講じていただきたい。

- (1) 丹後国営開発農地の多くが利用権設定農地の更新期を迎えるが、利用権設定の更新が順調に進むよう取り組んでいただきたい。
- (2) 葉たばこの代替えとなる農作物の、早急な導入対策を講じられたい。
- (3) 農業生産法人と農外法人の農業への参入において、既存地元農家との土地利用について、より緊密な連携と調整を図られたい。

### 京丹後ブランド品生産のあり方と流通対策について

京丹後市の農産物について様々なメディアで情報提供がなされ、消費者の関心や評価が高まっている。今後、ブランド産地として発展するには農家を組織化し、安定した生産・供給体制を確立する必要がある。そのためには、関係機関が連携して産地化の取組を進める必要がある。

- (1) 平成22年産米において、丹後産米は惜しくも「特A」を獲得することができなかった。「特A」を再度獲得するためにJAを中心とした生産組織の連携強化を図られたい。
- (2) 京丹後産農産物をブランド化するには、品質の向上とともに、安定した生産・供給体制の確立が不可欠であり、JAを中心とした生産組織の連携強化を図られたい。

## 5 循環型農業の取り組みについて

- (1) バイオマス液肥の有効利用についてさらなる実証を積み重ね、市民の理解を得る必要がある。
- (2) 京丹後市内で生産される畜産農家の堆肥を市内で有効に還元する方策を確立されたい。

## 6 地産地消の推進について

- (1) 京丹後市産の農水産物の学校給食での積極的な利用を、地産地消という点から京丹後市としても考慮をお願いしたい。
- (2) 地場産品を地元で販売する取り組みへの積極的な支援をお願いしたい。
- (3) 食育基本法を積極的に活用し、地元の農水産物を食する伝統的な日本型食生活の良さを次世代に伝える活動を推進していただきたい。

## 7 農業委員会の体制強化について

改正農地法が施行され、農業委員会の日常業務は非常に多忙となっています。円滑な業務遂行のために、京丹後市のさらなる支援をお願いしたい。

## 8 原子力発電所事故に伴う放射能災害への取り組みについて

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故による稲わらや土壌の汚染、風評被害は、福島県のみならず、近隣の都道府県にまで大きな影響を及ぼしていることを踏まえ、府内農産物等に係る必要な検査や適切な情報提供など国・府と連携し、万全な対策を講じられたい。

## 9 TPP交渉参加への反対表明について

全国の農業委員会系統組織をはじめ、全農など農林漁業関係組織がこぞって反対する中で、政府からTPP協議への参加表明がなされた。

TPPへの参加により、輸入農産物の関税が撤廃されることになれば、農産物の価格低迷に拍車がかかり、多くの農家の経営は成り立たなくなるものと思われる。

また、農村の水路、農道等の農業用施設は多くの小規模農家の協力がなくては維持できないのが実態であり、農家数の減少は農地の荒廃を加速し、更には農村集落の崩壊につながる危険性ははらんでいる。

そうした実情を国に訴え、農業・農村を守る施策を執行されるよう国、府に働きかけていただきたい。

# 農家が経営する直売所

## 井上農産直売所



峰山町丹波

井上邦夫さん(右 49才)  
富田亜実さん(左 23才)

峰山町丹波に認定農業者が経営する直売所があります。店内には経営者の井上邦夫さんの農産物をはじめ、様々な生産者の野菜が陳列され、店長の富田亜実さんの笑顔が絶えない。明るい接客で、買い物されるお客さんも和やかな気持ちになれます。

料理の仕方を教えてほしいというお客さんもあり、店長自身も色々と野菜の勉強をし、コミュニケーションを取りながら対面、会話が出来る店作りを心がけていることから、1日に60〜70人のお客さんが来店されています。

農業が大好き、土を触るのが大好きと言う井上さんは、「夢や情熱は隠さず人に伝えることが大事だ」と語られ、従業員に恵まれ楽しく目標を持った職場づくりを心掛けているとのこと。

また、「大雪で野菜の調達が困難ですが、来店して下さるお客様に出来る限りの品揃えが出来るよう心掛けています。」と井上さん。

流通業界で仕事をしていたこともあり、最近は大阪・東京方面へ足を運び、京丹後市の新鮮な野菜を都市部の方々に提供できるよう流通面を開拓し、販路の拡大にがんばっています。

# がんばってます!

## 大宮町奥大野

森 和哉さん(35才) 万里子さん  
ことり 琴莉ちゃん(8才) いちか 一歌ちゃん(6才)

袋詰めされたえび芋(親芋)



袋詰めをされた野菜を持つ和哉さんと一歌ちゃん

# 食いしん坊農家が追求する情熱野菜



今晚はおとうさんの作った野菜であったかい“鍋”  
左から和哉さん、琴莉ちゃん、一歌ちゃん、万里子さん

与謝野町で通勤農業を展開する森和哉さん(認定農家)は、ビニールハウス6棟と露地畑の約60aで九条ネギ・水菜・千両なす・えび芋など年間を通して栽培されています。

収穫した野菜を自宅にある作業場で、万里子さんと一緒に「情熱野菜」と記されたステッカーが貼られたオリジナルな袋に詰め、忙しい時は娘の琴莉ちゃん・一歌ちゃんもお手伝いしています。

農作物の出荷は、丹後の流通業者を通じ、全国に発送されると同時に、峰山、大宮の直売所等へ卸しているとのこと。

和哉さん自身、食べるのが大好きなので、ひと味もふた味も違う、毎日食べたくなる美味しい野菜が育つよう、山の落ち葉・刈草・もみガラ等を使って土づくりをしています。

農薬・化学肥料の使用を出来る限り抑えた栽培を心がけ、「食いしん坊農家」が作る「情熱野菜」をキャッチフレーズに、消費者へ安全、安心でおいしい野菜を提供できるよう、情熱を注いでいます。

# 京丹後アグリ 瓦版



野村重嘉さん撮影「コウノトリと虹」

## コウノトリの定住と二世の誕生を待つ取組み

久美浜町川上地区ではコウノトリの定住に向け、同町市場の野村重嘉さん(76)と同町須田の佐々木信一郎さん(69)が市場と布袋野の2箇所に人工巣棟を設置されています。野村さんは、「市場地内に毎日のようにコウノトリのカップルが飛来しているの、この地で二世の誕生を待ち望んでいる」と語られ、日々の状況をホームページにより発信されています。

コウノトリの情報が知りたい方は、『コウノトリネット京丹後』で検索。カチッ!!

## 赤米 ~芋野の地へ~

古代米の赤米を約35年前に復活させ栽培していた弥栄町和田野の芦田行雄さん(87)が高齢を理由に昨年秋の収穫を最後に栽培を止め、同町芋野の藤村政良さん(61)に栽培を引継がれました。平城京跡から出土した木簡に「丹後国竹野郡芋野郷姦部古与曾赤春米五斗」と、芋野から赤米を朝廷に納めたとの記述があったことから約1200年以上前の時を経て芋野の地へ帰ってきました。



左:藤村さん 右:芦田さん

木簡写真:国立奈良文化財研究所蔵

藤村さんは、将来いつまでも芋野地内で赤米を伝承していくために「作って・食べて継承」を合言葉に『芋野郷赤米保存会』(仮称)の設立を計画されています。



## 農家民泊で造る 野間のどぶろく

野間地区には、農家民泊「温古里」(日達ゆみ子さん)、「里山体験あられ山村塾」(松村文雄さん)、「LOHASくるみ谷」(飯島篤さん)があり、それぞれのオーナーが個性を活かした経営をされています。

1月15日の小正月。「どぶろく」の仕込みをされるというので「温古里」にお邪魔しました。古民家を改装した囲炉裏もある居間での取材。オーナーのゆみさんは、「どぶろくには企業秘密もあるので・・・」と笑いながら、今までの苦労話を交えて話してくれました。

種麹は、ゆみさんが師匠と呼ぶ、白杉酒造の杜氏である白杉悟さんから仕入れ、米はコシヒカリで自家栽培しています。どぶろくは「温古里」で製造・販売し、他の2軒でも、宿泊客に提供しています。

明るく話し好きなゆみ子さん。実直な人柄の初夫さん。文字どおり「ほっこり」とした気分になれる宿「温古里」。そんなご夫婦と松村さん、飯島さんが心あわせて造る「どぶろく」の味。最高ですよ!!

明るく話し好きなゆみ子さん。実直な人柄の初夫さん。文字どおり「ほっこり」とした気分になれる宿「温古里」。そんなご夫婦と松村さん、飯島さんが心あわせて造る「どぶろく」の味。最高ですよ!!



左:ゆみ子さん  
右:初夫さん

## 京都府農の匠のわら細工



わら細工への思いを語る上田さん

弥栄町和田野の上田英志さん(86)は「京都府農山漁村伝承優秀技能認定者(匠)」に認定され、独創的なわら細工の装飾品を作成されています。

わら細工を行なうためにもち米を栽培し青刈りをして、天日干しで青みの残ったわらを採っての作業です。

年を取り、しめ縄など装飾品の作成数も減ってきたとのことですが、熟練した技で今後ますます素晴らしい作品を見せていただきたいものです。



独創的なわら細工「花」

